

黎明期から変化した現在の姿を探る —6名の識者の目に映っているネット右翼像の研究—

蔭山 海人

第1章の第1節第1項において、現在のネット右翼は、ネット右翼が誕生した2002年の時とは性質が異なってきたという指摘を紹介し、第2項では現在のネット右翼像についてレビュー論文を書く理由を「ネット右翼の意見の統一」と「ネットの政治利用」の2つにまとめて説明を行う。第2節では、基礎知識として、そもそも右翼とは何かを、「右翼」に含まれる様々な要素から読み取る。

第2章の第1節においてネット右翼的な考え方の根本となった書籍の紹介をし、その後、ネット右翼誕生の直接のきっかけとなった2002年の日韓ワールドカップにおいての、マスメディアの報道姿勢や韓国のラフプレイ、審判の疑惑の判定を取り上げる。第2節では、韓国やマスメディアへの不満を持った彼らが、どのようにして言論活動を行っていったのかを、ブログ、動画投稿サイト、まとめサイト、SNSと時代と共に移り変わっているネットのツールに焦点を合わせて追っていく。

第3章の第1節・第2節では、2008年に調査を行った1名と2013年に言論を行った5名の識者を紹介し、それぞれが述べている現在のネット右翼像を調べ、それぞれがどのような意見を持っているかを行動面、属性面、思想面の3つの観点にまとめて、表にした。

第4章では、第3章でまとめたネット右翼の行動面、属性面、思想面について、各識者の意見を個別に整理していく。まず、第1節においてネット右翼という言葉だけでは語ることはできなくなったネット右翼について、さらに細かく分類をおこなう。第2節ではネット右翼の行動面について各識者の意見の一致や類似、違いなどを分かりやすいように、図にまとめる。第3節では、ネット右翼の属性面について各識者の主張をまとめる。特にこの部分は、識者のネット右翼に対する個人的な価値観によって、意見が左右される傾向がみられた。第4節では、ネット右翼の思想面について各識者の主張をまとめる。6名のいう思想は、嫌韓、マスメディアへの反感、愛国心が主なものであった。5節ではこれらをすべてまとめて、現在のネット右翼の姿を再現してみた。

第5章の第1節では、これまでの明らかになったことを書き出し、それを3つの例として示した。第2節では、示唆として、ネット右翼を知る際にデモに頼りすぎる危険性、嫌韓と愛国心の結びつき、ネット右翼は一般人という3点について述べる。第3節では本論文の貢献として、識者が自身の考えを肯定することのできる情報源を恣意的に選んでおり、他の情報源に触れていない可能性を指摘した。第4節では、反省として、参照した文献の少なさを挙げ、今後の課題としてネット右翼とそうでない者の線引きの確定と、確定されたネット右翼に関する定量データ集めの必要性を述べる。